

分科会 1 (たたき台)

・多様性

・交流

受け入れる 違う人がいる

・支え合う

(多様性) 学校教育からの取り込み

連動性のある形で

学校外教育(遊び場など含む)からでも良いか

踏み込んだ表現も必要か
違いを知る機会づくり等、具体的に

分野をまたいだ取組・コンテンツ。循環して
いこう

・ヤングケアラー

・ダブルケアラー

マイノリティキーワードを残しても良い

・包括支援

・子育て包括支援

地域へのつながっていくことも大切か

・子供の権利

・共存

・居場所

自然な意見をひろっていく
子ども同士議論し合える場

場所を設置するというより、既存の場をもっと行きや
すい環境。ハードル下げたり

・認め合い

知らないことが多い, 誰もが居心地の良い

個性にあった対応。不登校支援のアプ
ローチ手法など

自己肯定感を高められるような

困っている人(誰もがという視点)

一方的ではなく、弱い者同士でも支え合える環境

・誰もが取り残されない

・迷わず相談できる

「一番困っている」も良いが、ためらうことのない
ような雰囲気づくり(相談することは悪くない。)

困っていると思われたくない人も
いる

・難病者, 医療的ケア

・おせっかい文化

具体的に

・つながり

横のつながり, 官民の展開

気づきのある地域(近所, 商店など),
知っていく努力

・日常的交流

・コミュニティ

親以外とのつながりでも
成長できる

インクルーシブな環境づくり

無意識的に知る。きっかけづくりも大事。「**当たりまえ**」

まずはおせっかいはやくがつながるような街
が良い。つながりの場所

・デジタル化

もっと手軽に身近に。ラインでの相談など。

失敗をチャンスに
変えられる

・若者

シンボルとなる大規模なイベント

18歳以上相談できる場, 地域限定せず

若者主体的に活動できる場
(大人のサポート)

困難な若者 高校退学
支援する資源がない(公的支援も必要)

(受け取り方)
おせっかいを望まない人
もいる。そっとしておい
た方が良い人もいる

いろんな場があ
っても良い
雰囲気含めて

おせっかいはいて良い場もある

【まちづくりの方向性】

- ・多様性を尊重し，共に認め合い，支え合うまちづくり
- ・だれもが自由に交流したくなる，大きく広い「間口」を持った居場所づくり
- ・活力や安らぎを得ることができ，活力や安らぎが連鎖する居場所づくり
- ・地域での関わりを深め，災害時において助け合えるまちづくり
- ・様々なニーズ，様々な世代に合わせた，ヤングケアラー，ダブルケアラー等を支援する仕組みづくり
- ・最も困っている人が生活しやすいまちづくり

【基本的取組】

- ・福祉，子育て等多様なニーズに対応する様々なコーディネーターを身近な場所に配置する。

※具体的なイメージ：－

- ・災害時の避難場所において，バリアフリーに配慮するほか，集団生活に困難を抱える人であっても，落ち着いて過ごすことのできる場所を確保するとともに，周囲の理解を得られるような取組も推進する。

※具体的なイメージ：福祉施設を避難所として活用する。子連れの方や，声や物音に対する寛容さを求める取組を実施する。

車いす利用者が避難しても，適切に受け入れられる環境を整える。

- ・歩行困難者やベビーカーの利用者，視覚障害者等の多様なニーズを考慮し，ユニバーサルデザインを踏まえた視点から，だれもが安心して移動できるよう，歩道や道路の整備を促進する。

※具体的なイメージ：車いすユーザーやベビーカー利用者は「段差がない道路」が利用しやすいが，視覚障害者は「段差がない道路」は目印がなく，道をイメージできず利用しにくい。ユニバーサルデザインを踏まえた視点から，相反するニーズにも対応できるような環境整備を促進する。

- ・当事者だけではなくケアラーも対象とした，ひとりひとりが共感し合うことのできる場をつくる。

※具体的なイメージ：「求めること」「できること」を貼ることができるマッチング掲示板（オンラインも可）。

オンライン上のアバターであっても，当事者同士で話せる場合は，深い共感に繋がる。

- ・障害を抱える方だけでなく，難病の方にも配慮した共生社会の充実のため，「最も困っている人が生活しやすいまちづくり」を共通認識とする。

※具体的なイメージ：感覚過敏の方が，防音でサッカーの観戦ができるブース

難病に罹患した場合，就労に課題があるケースが多いことから，理解促進支援等の取組を進める。

【まちづくりの方向性】

- ・ 地域住民や行政，民間企業，NPO法人，医療機関等の様々な主体が連携した「調布市で子どもを産みたい・育てたい」と思えるまちづくり
- ・ だれもが安心して子どもを産み，育て，困った時にいつでも相談することのできる，切れ目のない支援環境の充実
- ・ 子ども，子育てに寛容な地域づくり

【基本的取組】

- ・ 市民にとって身近な場所で，子育て支援や子どもの発達についての相談，貧困対策や虐待防止策等，子育てに関する包括支援サービスを充実させる。

※具体的なイメージ：児童館等に子育て包括センター機能を置き，保健師，助産師，ソーシャルワーカー等を常駐させる。
独自のサービスを打ち込むことで，他自治体に比した強みを持った行政とする。

- ・ 行政と民間が連携した子ども・子育て施設の整備やサービスの展開を促進する。

※具体的なイメージ：離乳食だけを用意した「おしゃべり会」（民間のノウハウ・行政の財政支援）
パパ・ママのためのオープンチャット（民間のノウハウ・行政の財政支援）
民間企業による訪問サービスを活用し，パパ・ママの空き時間を創出する。

- ・ 子育てに対する寛容さに溢れる地域の醸成を目的とした広報・啓発を進める。

※具体的なイメージ：子育てにおける精神的負担を和らげるため，住宅街における子どもの声，路上で遊ぶ子供たちや公共交通機関でのベビーカーの利用などに対する理解促進。

- ・ 「子どもを産み，育てやすいまちづくり」を推進することで，調布市の子育て環境の良さをPRする。

※具体的なイメージ：子育て環境の良さをPRすることで，調布市への流入，人口の増加にもつなげる。

【まちづくりの方向性】

- ・子どもたちが互いを尊重し、認め合い、支え合うことのできる心の壁のない環境づくり
- ・学び・食・遊び等を通じて、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくり
- ・アレルギーに配慮した安心して過ごせる学校づくり
- ・子どもたちが安全に過ごすことができる、地域に開かれた学校づくり
- ・学校でしか経験できないこと、学校でしか学ぶことができないことを意識した学校づくり

【基本的取組】

- ・特別支援教育の更なる充実，ギフテッド教育の導入など，子どもたちが自分と他者の違いを自然に受け入れることができ，多様性について「気づき」を得ることのできる交流機会や教育体制を充実させる。
- ※具体的なイメージ：ふれあい給食の拡充（外国人等，多様な背景の人たちと交流）。服装・髪型等の制限を緩和する。

- ・年齢差，能力差，障害の有無などに対する心理的な壁を感じる事が無い教育を推進する。
- ※具体的なイメージ：校内におけるが級間交流の取組や，他校の部活動に参加することのできる制度を創出する。
障害有無関係なくだれもが楽しめる，ボッチャ等を授業に取り入れ，障害を持つ方と日常的に接する機会を創る。

- ・アレルギーを持つ子どもたちが多くいることを前提とした給食の提供やアレルギー対応専用調理室の整備を進めることに加え，授業においても配慮する等，アレルギーについての教育・研修プログラムを充実させる。
- ※具体的なイメージ：アレルギーについての食育プログラムを充実させることで，子どもたちも含め，学校全体での理解を深める
（給食の提供限らず，牛乳パックでの工作や小麦粘土での制作等，日常で起こりうるアレルギー対応も含む）

- ・学校のセキュリティを保ちつつ，地域に開かれ，地域と協働した学校づくりをしていくことで，地域コミュニティの重要性と学校のセキュリティをバランスよく両立させる。
- ※具体的なイメージ：子どもたちに対して「知らない人には挨拶しない」ことだけを教えるのではなく，学校と地域が連携することで，自然に子どもたちが地域の方と挨拶できる環境を作りつつ，子どもたちの身を守るための指導・教育は徹底する。

- ・当事者の経験を教育現場等で子どもたちに伝えられるように，当事者に向けた研修を実施する等，子どもたちに多様性を伝える人財（当事者）を増やすための取組を促進する。
- ※具体的なイメージ：当事者自らが経験したことを教育現場等で伝えられるように，内容や説明手法等の当事者に向けた研修を実施する。

- ・学校に限らず，子どもたちが過ごす場所におけるバリアフリーを徹底する。
- ※具体的なイメージ：学校にはスロープがあっても，学童クラブに設置されていないケースもあり，その場合，車いすを利用する子どもたちは，学童クラブの利用を断念せざるを得ない。

【まちづくりの方向性】

- ・ 中学生世代から18歳以上の世代までを含む、幅広い若い世代の交流の場、活躍の場づくり
- ・ 若い世代ひとりひとりに向き合い、個々の課題を解決することができる相談・居場所づくり

【基本的取組】

- ・ 若い世代が共感を得られることのできる居場所づくりを促進する。
※具体的なイメージ：「共感」が得られるよう、同世代に相談することのできる仕組みを整備する。
- ・ 若い世代が行政計画や地域の取組に参加しやすい仕組みを設けるだけでなく、若い世代がより主体的に地域で活動することができる環境を整備し、活躍の場を創出する。
※具体的なイメージ：SNS等を活用した、行政計画や地域の取組に若者が参加しやすい仕掛け。
行政計画等について学校やCAPS等で意見を募る。
若者同士のつながりの場を作ることで、若者が主体となって考え、社会貢献活動に参加する機会にもつながる。
- ・ 若い世代にシンボルとして受け入れられる大規模なイベントを促進する。
※具体的なイメージ：まちのシンボルとなる大規模なイベント（例：「鬼太郎フェス」）を開催し、観光にも活用する。
- ・ 多分野で活躍できる「人財」を調布で生み出すため、若い世代の人財育成を展開する。
※具体的なイメージ：18歳以上も含む若い世代を対象にした、就労支援やコーディネーター
- ・ 困難を抱えた青少年の課題解決を目的に、18歳以上の方でもいつでも相談できる居場所を拡充していく。
※具体的なイメージ：CAPS機能の拡充及び全市的な展開を実施する。
ステップアップホーム事業等、切れ目ない支援サービスを継続的に実施する。

【まちづくりの方向性】

- ・多くの市民が訪れる，様々なパターンの公園の整備

【基本的取組】

- ・既存の設備を活用し，まち自体を装飾することで交流の場を演出をする。

※具体的なイメージ：歩行者用信号機の人シルエットを青＝鬼太郎，赤＝目玉のおやじにする。
下石原八幡神社の軒下に猫娘のオブジェを設置する。

- ・遊び方や利用方法を限定しない，居心地が良く，また，そこに集まる人が交流することができる「仕掛け」がある公園をつくる。

※具体的なイメージ：たこ公園は遊具で遊ぶ子どもだけでなく，ベンチでお弁当を食べる人など，様々な人が集まっている。
ユニバーサルデザインにこだわるだけでなく，地域によって個性的な公園を整備することも大切。
限定的な人しか使えない遊具があっても良いので，様々なタイプの公園を設置する。

【まちづくりの方向性】

- ・「デジタル化」による，一人一人に伝わる情報が豊かなまちづくり
- ・「デジタル化」による，より気軽に相談・交流できるまちづくり

【基本的取組】

- ・デジタル技術を活用し，多くの市民の声を聞くことができ，市民に情報を伝え，市民をサポートする仕組みを整備する。

※具体的なイメージ：Zoom・LINEによる相談機能や，AIが疑問に答えるチャットボットを取り入れる。
郵送に拘るのではなく，希望者にメールで対応する等，デジタル化を推進した申請に対応する。

- ・当事者に有益な情報を確実に伝えるため，ニーズにあった情報発信や分かりやすく「伝える」工夫をする。

※具体的なイメージ：調布市公式アプリを製作し，ニーズに合ったカテゴリごとに利用者が選択できるようにする。

- ・だれもがデジタル化に対応できるよう，デジタルディバイドの解消を図る。

※具体的なイメージ：地域の学生等と協力し，支援する窓口・場所を整備する。日常生活で活用できる便利なツール，サービス（ネット通販，宅配等）の利用促進も含め，当事者視点に沿って生活しやすい環境づくりにつなげていく。
デジタル技術を用いたイベントを実施する。